

研究種目：若手研究 (A)

研究期間：2007～2010

課題番号：19682004

研究課題名 (和文) 南米アンデス地域におけるワリ期の社会動態の研究

研究課題名 (英文) Wari Period Social Dynamics in the Andean Region of South America

研究代表者

渡部 森哉 (WATANABE SHINYA)

南山大学・人文学部・講師

研究者番号：00434605

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・考古学

キーワード：先史学、アンデス、インカ、ワリ、国家、都市

### 1. 研究計画の概要

インカ帝国で知られるアンデス地域には、1 万年以上の人類の歴史がある。本研究ではインカ帝国の祖型と見なされるワリ国家に焦点を当てる。特にペルー北部高地を事例として、ワリの台頭によってどのような変化が生じたのかに注目する。

パレドネス遺跡の出土遺物の詳細な分析を行い、エル・パラシオ遺跡の発掘調査を実施し、両遺跡の出土遺物を比較検討し、この時期の社会動態を明らかにする。それを通じ、アンデスにおける国家、都市の特徴を考察する。

### 2. 研究の進捗状況

2006 年に発掘調査を実施したパレドネス遺跡の出土遺物を 2007 年度に分析した。同遺跡ではペルー北高地でティワナク文化の土器が初めて発見された。またチュルパと呼ばれる地上式墳墓が A.D.800 年頃に現れたことを確認したが、それがどこから導入されたかは不明である。

パレドネス遺跡の位置づけを解釈し、ワリ期の社会動態を総体的に把握するために、ワリ期の行政センターであると考えられていたエル・パラシオ遺跡で 2008 年に発掘調査を実施した。

3 つの発掘区におけるトレンチ発掘の結果、エル・パラシオ遺跡がワリ期の行政センターであることが明らかとなり、ペルー北高地がワリ国家の直接的支配下に置かれていたことが、実証的に証明された。ただし、インカ帝国期と同様に、カハマルカ地方はワリの政治的支配下に置かれていたが、カオリン土器

製作をはじめとするその文化的独自性を保った。

同遺跡では半地下式の墓室が検出された。内部は荒らされていたが、その周囲から多くの奉納品が出土した。ワリ様式の土器や、ペルー北海岸的な土器が出土した。カハマルカ地域には原産地のない黒曜石の破片も出土している。この時期の人々の活発な移動の証拠である。

2009 年にエル・パラシオ遺跡出土土器の全破片約 700 キログラムを分析した。土器タイプを確定し、層位ごとに各タイプの比率を出した。これまでカハマルカ中期 (A.D. 600-900) は 3 時期に細分されていたが、装飾を伴うカオリン土器を基に 5 もしくは 6 時期に細分できる見通しを得た。ワリ期の社会動態をより短い時間幅で解明する基盤となる。

土器の図面作成は未了である。人骨、獣骨、石器などの分析もまだ行っておらず、これから専門家に依頼する予定である。

### 3. 現在までの達成度

①当初の計画以上に伸展している。

(理由)

エル・パラシオ遺跡の発掘調査により、ペルー北部カハマルカ地方がワリ国家の支配下にあったことが判明した。2006 年に発掘調査を実施した同じくカハマルカ県にあるパレドネス遺跡のデータとともに、ワリ期の社会動態を解明するための、きわめて貴重な資料である。アンデス考古学における大きな貢献である。

#### 4. 今後の研究の推進方策

(1)エル・パラシオ遺跡の発掘調査を継続する。地表から確認できる壁石の分布から、同遺跡の広まりは40ヘクタール以上あると考えられるが、複数の試掘坑を設定し、正確な大きさを把握する。

また遺跡の中核部に当たる発掘区(B区)を拡張し、建築の重なりとそれに伴う遺物の特徴を詳細に把握する。まず土器資料のタイポロジーに基づき時期決定を行う。土器による時期決定に基づき、獣骨、石器、など他の遺物の時期ごとの特徴、変化を把握する。また発掘区を拡張し、遺物の出土パターンの特徴を把握する。

エル・パラシオ遺跡におけるデータを、他地域と比較し、ワリ期の社会動態の一般的特徴を抽出するとともに、カハマルカ地方の特異性を明らかにする。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計5件)

① Watanabe, Shinya, La cerámica caolín en la cultura Cajamarca (sierra norte del Perú): el caso de la fase Cajamarca Media. *Bulletin de l'Institut Français d'Études Andines* 38巻2号, pp.205-235, 2009, 査読あり。

② 渡部森哉, 「ペルー北部高地、エル・パラシオ遺跡の発掘調査-2008年」、『古代アメリカ』、第12号、pp.123-139、2009年、査読なし。

③ 渡部森哉, 「インカ国家における地方支配ーペルー北部高地カハマルカ地方の事例ー」、『国立民族学博物館研究報告』、32巻1号、pp.87-144、2007年、査読あり。

[学会発表] (計10件)

① Watanabe, Shinya, “Continuidad y elementos foráneos en la cultura Cajamarca, sierra norte del Perú: el caso del Horizonte Medio”, *VII Simposio Internacional de Arqueología PUCP*. 2009年8月29日, Pontificia Universidad Católica del Perú.

② Watanabe, Shinya, “Proceso cultural en el valle de Cajamarca, sierra norte del Perú: el caso del Horizonte Medio”, *5º Congreso Internacional de Americanistas*,

2009年7月20日, Universidad Iberoamericana.

[図書] (計3件)

① 渡部森哉, 『インカ帝国の成立-先スペイン期アンデスの社会動態と構造』、504頁、2010年、春風社。

② 渡部森哉, 「インカ帝国成立モデルの再検討」、『他者の帝国ーインカはいかにして「帝国」となったか』 (関雄二・染田秀藤編)、pp.165-184、2008年、世界思想社。